

保育園の自己評価を終えて

総合評価 A

自分たちが行っている保育を見直し、より良い保育実践ができるように、職員とともに自己評価を行いました。

少しずつその時々状況を見ながら、以前のような保育に戻せるようにしてきましたが、コロナ禍以前の保育を知らない職員も増えている事にも気づかされた一年でもあり、これを機に、改めて「こども主体の保育」や一つ一つの行事の開催方法についても検討してきました。

毎年評価を行うことで着眼点を意識できる職員も増えてきましたが、経験が浅い保育士も多いため、経験が豊かな職員が園の取り組み等を説明することで、少しずつ理解を深めていけるようにしていきました。

また、質の向上という点では、それぞれの経験に応じて職員が求められている職責や職務内容も明確化されていますが、園、クラス、また職員一人ひとりがしっかりと目標を持ち、年度途中と年度末に達成度や振り返りを記入し、園長・主任と共に振り返りをこまめに行うことで、それぞれの質の向上や全体の保育力向上につなげていけるようにしました。また、今年度は非常勤職員にも積極的にキャリアアップ研修等受けてもらうことで、意識と質の向上にも努めました。

今後も保護者アンケートや行事アンケートをはじめ、こまめに保護者とのコミュニケーションを大切に、また地域の方々との関りを深めることで、保護者のニーズや地域のニーズの把握に努め、保護者の皆様の協力を得ながら、園も職員も子どもたちと共に成長し、信頼される保育園の運営に努めていきたいと思っております。

令和6年3月

横浜みなとみらい保育園 園長 木下かおり